

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読 I a	左近 豊
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書ヒブル語本文を読む。テキストの文献学的諸問題、そして文芸学的特長を把握することを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 五書からは創世記「ヨセフ物語」、預言者からは「ハバクク書」、諸書からは「哀歌」を取り上げる。それぞれに旧約の民の歩みの重要な局面で語られてきた言葉であり、旧約聖書の人間観、世界観、そして歴史観を反映している。写本、古代訳を参照しつつヒブル語本文を読む。</p>	
<p><履修条件> 原則としてヒブル語文法基礎履修済み</p>	
<p><授業計画> 第1回：序、創世記 37:1~2 第2回：創世記 37:3~11 第3回：創世記 37:12~24 第4回：創世記 37:25-36 第5回：創世記 45:1-3 第6回：創世記 45:4-13 第7回：創世記 45:14-25 第8回：創世記 45:26-28 第9回：ハバクク書 1:1-4 第10回：ハバクク書 1:5-11 第11回：ハバクク書 1:12-17 第12回：哀歌 1:12-16 第13回：哀歌 1:17-19 第14回：哀歌 1:20-22 第15回：総括：</p>	
<p><準備学習等の指示> 各授業で課題となる聖書箇所事前に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)</p>	
<p><参考書>辞書:BDB、Koehler-Baumgartner、文法書:Gesenius、Waltke-O'Connor 参考書:ヴェルトヴァイン『旧約聖書の本文研究』、E.Tov, <i>Textual Criticism of the Hebrew Bible</i>、『左近淑著作集 III』、Field, <i>Origenis Hexapla</i> コンコルダンス:Lisowsky、Mandelkern、Hatch-Redpath (LXX)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度と期末レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読 I b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書のヘブライ語原典を丁寧に読む。</p>	
<p><授業の概要> この学期は、前年度に引き続き、ダニエル書のヘブライ語部分9～11章を読む。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の基本文法を理解できること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 ダニエル書9章1－4節 第3回 ダニエル書9章5－8節 第4回 ダニエル書9章9－12節 第5回 ダニエル書9章13－16節 第6回 ダニエル書9章17－20節 第7回 ダニエル書9章21－24節 第8回 ダニエル書9章25－27節 第9回 ダニエル書10章1－4節 第10回 ダニエル書10章5－8節 第11回 ダニエル書10章9－12節 第12回 ダニエル書10章13－16節 第13回 ダニエル書10章17－21節 第14回 ダニエル書11章1－4節 第15回 ダニエル書11章5－8節</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回テキストをよく読み、準備をすること。</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia</p>	
<p><参考書> 辞書はBDBを用いるので、毎回持参すること。ウォンネベルガー『ヘブライ語聖書への手引き』も使用する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 演習に積極的に参加することを求める。毎回の発表と授業への参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義 I a	本間 敏雄
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 創世記18、19章を、構文論とマソラ本文の基礎知識を学びつつ積義する。</p>	
<p><授業の概要> 創世記18章のイサク誕生予告とソドムのための執り成し、19章のソドム滅亡伝承を構文論と一般的積義の諸方法、特に解釈の基礎となる本文批判のあり方を学びつつ積義する。ヒブル語本文の諸現象とマソラにも留意し、テキスト理解を深めたい。後期課程「旧約聖書原典特殊研究 a」と合同。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語基礎文法修得者</p>	
<p><授業計画> 第1回：創世記18：1－3 3人の旅人 第2回：創世記18：4－7 アブラハムの応接 第3回：創世記18：8－11 誕生の約束 第4回：創世記18：12－15 サラの笑い 第5回：創世記18：16－21 ソドムとゴモラ 第6回：創世記18：22－26 執り成しと正義 第7回：創世記18：27－33 // (2) 第8回：創世記19：1－5 ソドムの訪問者と反応 第9回：創世記19：6－9 ロトの対応 第10回：創世記19：10－14 滅亡の予告 第11回：創世記19：15－17 ロト一家の救い 第12回：創世記19：18－22 ツォアル逃避 第13回：創世記19：23－28 ソドムとゴモラの滅亡 第14回：創世記19：29－33 ロトと娘達 第15回：創世記19：34－38 モアブとアンモン</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本 (Codex Leningradensis) 写真版。 辞書は簡易なものとして Holladay、専門的なのは Gesenius、BDB 或いは HALOT (HALAT)</p>	
<p><参考書> 「ヒブル語入門」10.文の構造(構文論)(改訂増補版 左近/本間)、「旧約聖書の本文研究」(E.ヴェルトヴァイン 鍋谷/本間共訳)、「旧約聖書積義入門」(H.バルト/O.H.シュテック 山我哲雄訳)。「ヘブライ語聖書への手引き」(R.ウォンネベルガー 松田伊作訳)、A simplified guide to BHS(H.P.Rueger).</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 課題の発表と討議、レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義 I b	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 創世記20、21、22章を、構文論とマソラ本文の基礎知識を学びつつ釈義する。</p>	
<p><授業の概要> 20章のアビメレク伝承、21章イサク・イシュマエル、ベエル・シェバ伝承、22章イサク奉献伝承を釈義する。構文論と伝承史に関わるヒブル語本文の諸現象とマソラに留意し、テキスト理解を深めたい。後期課程「旧約聖書原典特殊研究b」と合同。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語基礎文法修得者</p>	
<p><授業計画> 第1回：創世記20：1－5 サラ事件 第2回：創世記20：6－8 神の介入 第3回：創世記20：9－13 譴責とアブラハムの弁解 第4回：創世記20：14－18 アビメレクの対応 第5回：創世記21：1－7 イサク誕生、母の喜び 第6回：創世記21：8－13 ハガルの苦難 第7回：創世記21：14－17 荒野の母子、天からの声 第8回：創世記21：18－21 約束 第9回：創世記21：22－26 友好の誓い 第10回：創世記21：27－33 ベエル・シェバ 第11回：創世記22：1－3 イサク奉献の命令と応答 第12回：創世記22：4－8 父子の旅路 第13回：創世記22：9－12 祭壇に下る声 第14回：創世記22：13－14 アドナイ・イルエ 第15回：創世記22：15－19 祝福の約束</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本（Codex Leningradensis）写真版。 辞書は簡易なものとして Holladay、専門的なのは Gesenius、BDB 或いは HALOT（HALAT）</p>	
<p><参考書> 「ヒブル語入門」10.文の構造（構文論）（改訂増補版 左近／本間）、「旧約聖書の本文研究」（E.ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）、「旧約聖書釈義入門」（H.バルト／O.H.シュテック 山我哲雄訳）。「ヘブライ語聖書への手引き」（R.ウオンネベルガー 松田伊作訳）、A simplified guide to BHS(H.P.Rueger).</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 課題の発表と討議、レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学特研 I a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 今学期は、西村俊昭『「コヘレトの言葉」注解』と対論しながら、コヘレトの言葉を一章ずつ丁寧に釈義する。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の基本文法を理解できること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 緒論的問題 3. コヘレト1章の注解 4. コヘレト2章の注解 5. コヘレト3章の注解 6. コヘレト4章の注解 7. コヘレト5章の注解 8. コヘレト6章の注解 9. コヘレト7章の注解 10. コヘレト8章の注解 11. コヘレト9章の注解 12. コヘレト10章の注解 13. コヘレト11章の注解 14. コヘレト12章の注解 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia</p>	
<p><参考書> 西村俊昭『「コヘレトの言葉」注解』、日本基督教団出版局、2012年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎回、参考書を用いて各章の内容を報告していただき、提出レポート（4000字）で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学特研 I b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> この学期は、昨年度と同様に雅歌を取り上げ、最近の注解書を読みながら雅歌の解釈の射程を検討する。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の基本文法を理解できること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 雅歌7章1－7節の講読 3. 雅歌7章8－14節の講読 4. 雅歌8章1－7節の講読 5. 雅歌8章8－14節の講読 6. 雅歌の緒論問題 7. 雅歌1章の解釈 8. 雅歌2章の解釈 9. 雅歌3章の解釈 10. 雅歌4章の解釈 11. 雅歌5章の解釈 12. 雅歌6章の解釈 13. 雅歌7章の解釈 14. 雅歌8章の解釈 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia</p>	
<p><参考書> D.Garrett, Song of Songs, 2004 (WBC). C.Exum, Song of Songs, 2005 (OTL)</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた担当内容と提出レポート（4000字）で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学演習 I a	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書の諸主題、あるいは旧約聖書を読む場合の諸課題を共に学ぶ。ヒブル語を履修していない人、聖書神学（旧約聖書神学）専攻でない人にも開かれた演習である。</p>	
<p><授業の概要> 「年に三回、主の前に出るべき祭り」は、新約聖書のキリスト論や聖霊降臨物語に枠を与えている。しかし、本来この三つの祭りは何であったかについて、日本ではあまり研究がなされてこなかった。前期は、祭儀カレンダーと三回の祭りの全体構造に焦点を当てる。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語や七十人訳のギリシア語の知識を前提とはしないが、説明をある程度理解する意志と準備学習は求められる。</p>	
<p><授業計画> 「年に三回、主の前に出るべき祭り」</p> <p>I. 年に三回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アビブの月とニサン 2. 七週 3. 年の変り目 <p>II. 七日の祭り</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 七日間種入れぬパンを食べる 5. 七日間仮庵に住む 6. 第七の月の七日間 <p>III. 安息日</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 種入れぬパンの祭りと安息日 8. 安息日とは何か 9. 忙しい時に仕事を休む日 <p>IV. 年に三回エルサレムに上る</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. エルサレムで種入れぬパンを食べる 11. あとにおいてくる耕地 12. 空手で主の前に出てはならない <p>V. 過ぎ越しと種入れぬパンの祭り</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 初子奉獻の時季 14. 過ぎ越しと種入れぬパンの祭りの関係 15. まとめ 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>	
<参考書> 毎回必要な参考文献を示す。	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業で割り当てられた課題の発表を含む授業参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学演習 I b	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書の諸主題、あるいは旧約聖書を読む場合の諸課題を共に学ぶ。ヒブル語を履修していない人、聖書神学（旧約聖書神学）専攻でない人にも開かれた演習である。</p>	
<p><授業の概要> 「年に三回、主の前に出るべき祭り」は、新約聖書のキリスト論や聖霊降臨物語に枠を与えている。しかし、本来この三つの祭りは何であったか、前期に続いて研究する。後期は、個々の祭りを規定する聖書箇所注目する。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語や七十人訳のギリシア語の知識を前提とはしないが、説明をある程度理解する意志と準備学習は求められる。</p>	
<p><授業計画> 「年に三回、主の前に出るべき祭り」</p> <p>I. 出エジプト記 12 章－13 章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過ぎ越しの祭りとは何か 2. 農家の祭りの「歴史化」？ 3. 過ぎ越しの祭りと初子奉献 <p>II. 出エジプト記 12 章－13 章</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 過ぎ越し祭と種入れぬパンの祭り 5. なぜ種入れぬパンを食べるのか 6. 過ぎ越しの子羊の骨を折らないのはなぜか <p>III. 申命記 16 章と民数記 28 章 29 章</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 安息日の枠組みと種入れぬパンの祭り 8. 三つの祭りの捧げもの 9. エルサレムの祭り <p>IV. 出エジプト記 34 章と 23 章</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 「年に三度」 11. 種入れぬパンの祭りと安息日 12. 子山羊をその母の乳で煮てはならない <p>V. 三つの祭りと新約聖書</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 三つの祭りとキリスト 14. 三つの祭りと教会 15. まとめ 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>	
<参考書> 毎回必要な参考文献を示す。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業で割り当てられた課題の発表を含む授業参加度によって評価する。	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
アラム語 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記 31：47・エレミヤ 10：11・エズラ 4：8-24・5：1-17 など）、アラム語文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回：序 アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。</p> <p>第 2 回：創世記 31：47 を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。</p> <p>第 3 回：エレミヤ 10：11 を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第 4 回：エズラ 4：8-24 の講読(1) 不規則変化の名詞について学ぶ。</p> <p>第 5 回：エズラ 4：8-24 の講読(2) 動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。</p> <p>第 6 回：エズラ 4：8-24 の講読(3) 動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。</p> <p>第 7 回：エズラ 4：8-24 の講読(4) 動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。</p> <p>第 8 回：エズラ 4：8-24 の講読(5) 動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第 9 回：エズラ 4：8-24 の講読(6) 動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。</p> <p>第 10 回：エズラ 4：8-24 の講読(7) 二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。</p> <p>第 11 回：エズラ 5：1-17 の講読(1) 前置詞と代名詞語尾を学ぶ。</p> <p>第 12 回：エズラ 5：1-17 の講読(2) 二根字動詞の Hapel 形を学ぶ</p> <p>第 13 回：エズラ 5：1-17 の講読(3) 二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。</p> <p>第 14 回：エズラ 5：1-17 の講読(4) Pè Yôd 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第 15 回：エズラ 5：1-17 の講読(5) Pè Nun 動詞の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書></p> <p>左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011</p> <p>William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
アラム語 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書原典は主にヘブライ語で、一部アラム語で書かれている。この授業では、聖書のアラム語のテキストを読むことと古代訳の一つであるタルグム（アラム語訳）を読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル5章）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書などのタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル5章の講読に備える。</p> <p>第2回：ダニエル5章の講読(1) Pè' ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第3回：ダニエル5章の講読(2) Pè' ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。</p> <p>第4回：ダニエル5章の講読(3) 動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。</p> <p>第5回：ダニエル5章の講読(4) Lamed' ālep・Lamed Hè 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第6回：ダニエル5章の講読(5) 二重' ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。</p> <p>第7回：ダニエル5章の講読(6) 二重' ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。</p> <p>第8回：ダニエル5章の講読(7) 代名詞語尾つきの動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第9回：ダニエル5章の講読(8) 喉音を含む動詞について学ぶ。</p> <p>第10回：ダニエル5章の講読(9) 特殊な変化をする動詞について学ぶ。</p> <p>第11回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。</p> <p>第12回：タルグムの講読(1) バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。</p> <p>第13回：タルグムの講読(2) タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第14回：タルグムの講読(3) アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。</p> <p>第15回：タルグムの講読(4) 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition</p>	
<p><参考書></p> <p>左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011</p> <p>William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学 I	大住 雄一 小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 翌年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程1年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。</p>	
<p><授業の概要> 論文を執筆することの意味とプロセスを解説し、テキスト研究ならびに二次文献の検索を行う。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係 小友聡：黙示文学、知恵文学関係</p>	
<p><履修条件> 2014年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：導入 論文執筆の意味 第2回：課題の見いだし方 律法関係 第3回：課題の見いだし方 預言者関係 第4回：課題の見いだし方 文学関係 第5回：テキスト翻訳 律法関係 第6回：テキスト翻訳 預言者関係 第7回：テキスト翻訳 文学関係 第8回：テキストの構造解明 律法関係 第9回：テキストの構造解明 預言者関係 第10回：テキストの構造解明 文学関係 第11回：辞書、コンコルダンスの使い方 第12回：二次文献の検索方法 第13回：暫定的な文献表の作成 第14回：二次文献の使い方 第15回：質疑応答</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> ビブリア・ヘブライカほか、論文執筆者別に指示する。</p>	
<p><参考書> 毎回必要な文献を指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題の発表（50%）、討論への貢献（50%）を総合して評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学Ⅱ	大住 雄一 小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>今年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程二年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>論文の準備研究を各自が発表し、参加者がこれについて質問し、意見を述べる。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係 小友聡：黙示文学、知恵文学関係</p>	
<p><履修条件></p> <p>本年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：導入 論文執筆の手順 第2回：問題設定 律法関係 第3回：問題設定 預言者関係 第4回：問題設定 文学関係 第5回：研究史 律法関係 第6回：研究史 預言者関係 第7回：研究史 文学関係 第8回：主要テーゼ 律法関係 第9回：主要テーゼ 預言者関係 第10回：主要テーゼ 文学関係 第11回：論証過程 律法関係 第12回：論証過程 預言者関係 第13回：論証過程 文学関係 第14回：結論 第15回：最終的な質疑応答</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>論文執筆者別に指示する。</p>	
<p><参考書></p> <p>毎回必要な文献を指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末には暫定的に合否のみ通知するが、最終的に提出論文の成績が本演習の成績となる。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特講 I a	中野 実
前期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書学、新約聖書神学における重要研究課題について学び、その理解を深める事がクラスの目標。今回は、テーマとしてヘブライ書を取り上げる。</p>	
<p><授業の概要> 前期のクラスでは、まず講義を通してヘブライ書の緒論的諸問題について学ぶ。その上で、ヘブライ書の研究書を分担しながら読み、理解を深めることにする。</p>	
<p><履修条件> 通年で履修する事が原則。できない場合は、担当者と事前に相談すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 クラスのオリエンテーション 2 ヘブライ書の緒論的諸問題 ヘブライ書とはどういう書物か？ 3 ヘブライ書の緒論的諸問題 著者問題、成立年代、成立場所、成立事情など。 4 ヘブライ書の緒論的諸問題 統一性、構成、区分について 5 リンダース『ヘブル書の神学』3-32 頁 6 リンダース『ヘブル書の神学』33-52 頁 7 リンダース『ヘブル書の神学』53-71 頁 8 リンダース『ヘブル書の神学』71-86 頁 9 リンダース『ヘブル書の神学』86-100 頁 10 リンダース『ヘブル書の神学』101-120 頁 11 リンダース『ヘブル書の神学』120-139 頁 12 リンダース『ヘブル書の神学』140-150 頁 13 リンダース『ヘブル書の神学』151-168 頁 14 リンダースの学びのまとめ 15 後期の学びへの準備 	
<p><準備学習等の指示> クラスにおいて指示する。</p>	
<p><テキスト> B・リンダース『ヘブル書の神学』川村輝典訳、新教出版社、2002年。各自が用意すること。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて、担当者がクラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの積極的な参加（発表の担当、質問、コメントなど）を求める。前期末にはレポートを書いてもらう予定。出席、分担発表、レポート、参加度など、総合的に評価する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特講 I b	中野 実
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書学、新約聖書神学における重要研究課題について学び、その理解を深める事がクラスの目標。今回は、テーマとしてヘブライ書を取り上げる。</p>	
<p><授業の概要> 後期は、注解書などの助けを得ながら、ヘブライ書全体を読んでみる。</p>	
<p><履修条件> 通年の履修が原則。できない場合は、事前に担当者と相談すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ヘブライ 1 : 1-4 3 ヘブライ 1 : 5-2 : 18 4 ヘブライ 3 : 1-4 : 13 5 ヘブライ 4 : 14-5 : 10 6 ヘブライ 5 : 11-6 : 20 7 ヘブライ 7 : 1-28 8 ヘブライ 8 : 1-13 9 ヘブライ 9 : 1-28 10 ヘブライ 10 : 1-18 11 ヘブライ 10 : 19-39 12 ヘブライ 11 : 1-40 13 ヘブライ 12 : 1-29 14 ヘブライ 13 : 1-21 15 ヘブライ 13 : 22-25、まとめ。 	
<p><準備学習等の指示> 必要に応じてクラスで指示する。</p>	
<p><テキスト> 詳しいことはクラスで指示する。</p>	
<p><参考書> 必要に応じてクラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> クラスへの積極的な参加(発表の担当、質問、コメントなど)を求める。後期末にはレポートを書いてもらう予定。出席、分担発表、レポート、参加度など、総合的に評価する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I a	小河 陽
前期・2単位	<登録条件>学期ごとに履修できるが、通年で受講することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>マルコ福音書の釈義を通して、ギリシア語原典釈義の方法を学ぶ。個々のテキストに関して、釈義上の問題を学び、神学内容を吟味するように訓練する。釈義から説教への展開の可能性も模索する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>マルコ福音書の研究史を概観して釈義上の諸問題を把握した上で、範例として幾つかのテキストを取りあげて釈義の方法の基本を学ぶ。その後マルコ福音書から原則として毎回1つの段落を取り上げて、釈義の実際に取り組む。参加者各々は分担箇所について発表の義務がある。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ギリシア語の基礎知識を必要とするが、絶対条件とはしない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： マルコ福音書の研究史を概観して、現代の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第2回： マルコ 1:21-28（汚れた霊に憑かれた男）を例に、釈義の方法について学ぶ。</p> <p>第3回： マルコ 2:13-17（レビの召命）で、範例的にテキストの分析方法について学ぶ。</p> <p>第4回： マルコ 4:35-41（湖上の嵐を鎮める）で、範例的にテキスト分析の方法について学ぶ。</p> <p>第5回： マタイ 8:5-13 とルカ 7:1-10 の比較から、共観福音書の相違を学ぶ。</p> <p>第6回： マルコ 1:1-8（洗礼者ヨハネ）を中心に釈義を行う。</p> <p>第7回： マルコ 1:16-20（弟子召命）を中心に釈義を行う。</p> <p>第8回： マルコ 1:40-45（らい患者の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第9回： マルコ 2:23-28（安息日論争）中心に釈義を行う。</p> <p>第10回： マルコ 3:20-35（ベルゼブル論争とイエスの家族）を中心に釈義を行う。</p> <p>第11回： マルコ 4:1-20（種まきの譬え）を中心に釈義を行う。</p> <p>第12回： マルコ 5:21-43（ヤイロの娘とイエスの服に触れる女）を中心に釈義を行う。</p> <p>第13回： マルコ 6:6b-13（弟子の宣教派遣）を中心に釈義を行う。</p> <p>第14回： マルコ 6:30-44（5000人の供食）を中心に釈義を行う。</p> <p>第15回： マルコ 7:1-23（昔の人の言い伝え）を中心に釈義を行う。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる原典テキストを熟読し、代表的な註解書などの文献に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 27th edition.</p>	
<p><参考書></p> <p>諸マルコ注解書、その他は授業の中でその都度教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスにおける釈義への積極的な参加度と学期末提出のレポートにおける習熟度の評価による。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I b	小河 陽
後期・2単位	<登録条件>学期ごとに履修できるが、通年で受講することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> ルカ福音書の研究史を概観して、釈義上の諸問題を把握した後に、個々のテキストに即して、釈義上の諸問題を学び、神学内容を吟味するよう訓練する。釈義から説教への展開の可能性も模索する。</p>	
<p><授業の概要> 前期に引続き、取り上げる若干のテキストをルカの福音書から選び、実際に釈義を行うことで、問題点の把握と解釈の基本を確実にする。最初に簡単に、ルカ福音書の研究史の概観と釈義上の諸問題を学ぶ。参加者各々は分担箇所について発表の義務がある。</p>	
<p><履修条件> ギリシア語の基礎知識を必要とするが、絶対条件とはしない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： 前期に於ける釈義の問題と方法の要点を整理・復習する。</p> <p>第2回： ルカ福音書の研究史概観（歴史家、神学者としての著者ルカの評価）</p> <p>第3回： ルカ福音書の研究史概観（ルカの教会とその環境について）</p> <p>第4回： ルカ6：1－6（ナザレの会堂での説教）を中心に釈義を行う。</p> <p>第5回： ルカ5：1－11（漁師を弟子にする）を中心に釈義を行う。</p> <p>第6回： ルカ6：20－49（平地の説教）を中心に釈義を行う。</p> <p>第7回： ルカ7：1－7（百人隊長の僕の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第8回： ルカ7：18－35（洗礼者ヨハネとイエス）を中心に釈義を行う。</p> <p>第9回： ルカ7：36－50（罪深い女の赦し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第10回： ルカ8：40－56（ヤイロの娘と長血の女の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第11回： ルカ9：1－6、10：1－12（弟子たちの宣教派遣）を中心に釈義を行う。</p> <p>第12回： ルカ9：18－27（受難予告）を中心に釈義を行う。</p> <p>第13回： ルカ9：28－43a（山上の変貌）を中心に釈義を行う。</p> <p>第14回： 受難と復活についての釈義的諸問題を取り上げる。</p> <p>第15回： 釈義の方法と可能性について、総括的な反省と展望をする。</p>	
<p><準備学習等の指示> クラスで取り上げる原典テキストを熟読し、代表的な註解書などの文献に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト> Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 27th edition.</p>	
<p><参考書> ルカの注解書、その他は授業の中で、その都度教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスにおける釈義への積極的な参加度と学期末に提出のレポートにおける習熟度の評価による。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義Ⅱ a	遠藤 勝信
前期・2単位	<登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ヨハネの福音書1～4章の原典釈義。研究史、釈義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に釈義し、神学的考察へと向かう。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>はじめに、近年のヨハネ福音書研究の動向(研究史、方法論)を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語原典テキスト読解力(ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第02回 ヨハネの福音書のギリシャ語本文についての理解を深める。</p> <p>第03回 ヨハネの序文(1:1～18)を中心に、テキストの文学批評の実際を学ぶ。</p> <p>第04回 ヨハネの序文(1:1～18)を中心に、テキストと歴史批評の実際を学ぶ。</p> <p>II. 演習(参加者による釈義の発表とディスカッション)を中心に</p> <p>第05回 ヨハネ1:19～34(洗礼者ヨハネの証言)の原典釈義</p> <p>第06回 ヨハネ1:35～51(最初の弟子)の原典釈義</p> <p>第07回 ヨハネ2:01～11(最初のしるしーカナの婚礼)の原典釈義</p> <p>第08回 ヨハネ2:12～25(宮きよめ)の原典釈義</p> <p>第09回 ヨハネ3:01～15(ユダヤ人の指導者ニコデモとの対話)の原典釈義</p> <p>第10回 ヨハネ3:16～21(ナレーターによる総括)の原典釈義</p> <p>第11回 ヨハネ3:22～36(洗礼者ヨハネの証言、ナレーターによる総括)の原典釈義</p> <p>第12回 ヨハネ4:01～15(サマリア人の女との対話ーその1)の原典釈義</p> <p>第13回 ヨハネ4:16～26(サマリア人の女との対話ーその1)の原典釈義</p> <p>第14回 ヨハネ4:27～42(弟子たち、村人たちとの対話)の原典釈義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (28th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>	
<p><参考書></p> <p>R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年</p> <p>R・A・カルペッパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年</p> <p>R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年</p> <p>C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol.1</i>, 2003.</p> <p>M. Endo, <i>Creation and Christology - A Study on the Johannine Prologue</i> (WUNT), 2002. 他、クラスで随時紹介。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業における発表と期末試験(指定されたテキストについての釈義ペーパー [6,000～8,000文字])。評価には、クラスへの積極的な参加と貢献度を加味する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義Ⅱb	遠藤 勝信
後期・2単位	<登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ヨハネの黙示録1～5章の原典釈義。研究史、釈義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に釈義し、神学的考察へと向かう。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>近年の黙示録研究の動向(研究史、方法論)を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語原典テキスト読解力(ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。</p> <p>第02回 黙示録を読む前に(その1): 黙示録の周辺、背景理解。</p> <p>第03回 黙示録を読む前に(その2): 構造と構成、神学、他。</p> <p>第04回 黙示録1: 1～8を釈義し、釈義の営みにおける課題と観点を確認する。</p> <p>II. 演習(参加者による発表とディスカッション)を中心に</p> <p>第05回 黙示録1: 09～20(人の子の幻)の原典釈義</p> <p>第06回 黙示録2: 01～07(エフェソ教会への手紙)の原典釈義</p> <p>第07回 黙示録2: 08～11(スミルナ教会への手紙)の原典釈義</p> <p>第08回 黙示録2: 12～17(ペルガモン教会への手紙)の原典釈義</p> <p>第09回 黙示録2: 18～29(ティアティラ教会への手紙)の原典釈義</p> <p>第10回 黙示録3: 01～06(サルディス教会への手紙)の原典釈義</p> <p>第11回 黙示録3: 07～13(フィラデルフィア教会への手紙)の原典釈義</p> <p>第12回 黙示録3: 14～22(ラオディキア教会への手紙)の原典釈義</p> <p>第13回 黙示録4: 01～11(天の領域における神礼拝)の原典釈義</p> <p>第14回 黙示録5: 01～14(天の領域における小羊礼拝)の原典釈義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所ギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (27th or 28th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>	
<p><参考書></p> <p>佐竹明著『ヨハネの黙示録』(上・中巻)2009年</p> <p>R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001年</p> <p>R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i>, 1993.</p> <p>R. Bauckham, <i>The Jewish World Around the New Testament</i>, 2008.</p> <p>G. Beale, <i>The Book of Revelation</i> (NIGTC), 1999.</p> <p>D. Aune, <i>Revelation 1-5</i> (WBC), 1997. 他、クラスで随時紹介。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業における発表と期末試験(指定されたテキストの釈義ペーパー[6,000～8,000文字])。評価には、クラスへの積極的な参加と貢献度を加味する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学 I	中野 実 焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>新約神学で修論を書く予定の学生
<p><授業の到達目標及びテーマ>来年度に修士論文を提出する予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習。テーマの選定、論文を書くための技術を身につける事を目的とする。</p>	
<p><授業の概要>論文を書くとはどういう事かを学び、その課題に取り組む準備をするためのクラス。毎回学生の発表などを中心にすすめていく。全体としては二人の教員が共に責任を負うが、それぞれの担当の学生との個別指導を織り交ぜながら行われる。</p>	
<p><履修条件>2014年9月に修論を提出予定の学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 論文を書くとは？ ③ それぞれの課題、問題探し ④ その課題、問題に関連するテキスト探し ⑤ 課題テキストについて深く学ぶ ⑥ テーマの選定、見直し、決定 ⑦ 研究のための方法および道具について ⑧ 資料、先行研究さがし ⑨ 先行研究の学び 参考文献表の作成 ⑩ 先行研究の学びとそこからの展開 ⑪ 問題設定、テーゼの発見へ向かって ⑫ 問題設定、テーゼの吟味 ⑬ 題名、目次作成へ向かって ⑭ 議論の組み立てへ向かって ⑮ まとめ 	
<p><準備学習等の指示>論文はモノローグではないので、教師、学生との対話を大切にすること。</p>	
<p><テキスト>担当者が必要に応じて、指示する。</p>	
<p><参考書>担当者が必要に応じて、指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>クラスへの出席、課題への積極的参加によって、総合的に評価する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学Ⅱ	中野 実
前期・2単位	<登録条件>新約神学で修論を書く予定の学生
<p><授業の到達目標及びテーマ>今年度前期末に修士論文を提出予定の大学院二年生で、新約聖書神学専攻の学生のための演習。具体的にそれぞれの修士論文の執筆を助けるような学びをしていく。</p>	
<p><授業の概要>論文の準備段階において、それぞれが研究発表をし、担当者、参加学生の質問、意見などを聞きながら、論文を仕上げていくためのクラス。</p>	
<p><履修条件>2013年9月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出する予定の学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション 論文執筆の手順などについて ② 問題設定の点検 ③ 資料の点検 ④ 題名、目次、議論の枠組みを整える。 ⑤ より明確な問題設定 ⑥ 序論の執筆 ⑦ 研究史 発表者1 ⑧ 研究史 発表者2 ⑨ 論文のテーゼ 発表者1 ⑩ 論文のテーゼ 発表者2 ⑪ 議論の組み立て 発表者1 ⑫ 議論の組み立て 発表者2 ⑬ 結論 ⑭ 論文のフォーマットの整理：註、文献表など ⑮ まとめ 	
<p><準備学習等の指示>クラスで指示する。</p>	
<p><テキスト>必要に応じて、クラスで指示する。</p>	
<p><参考書>クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>クラスへの出席、クラスでの課題への積極的参加などによって、総合的に評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講 I b	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 弁証学の意味と可能性を明らかにする。中でも人間学的な弁証学を考察する。</p>	
<p><授業の概要> 20世紀神学における弁証学的方法を検討して、その上で人間学的な弁証学の試みを探究する。</p>	
<p><履修条件> 関心をもって参加すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 弁証学の再建 ② エーミル・ブルンナーの論争学の場合 ③ パウル・ティリッヒの相関的方法 ④ ラインホルド・ニーバーの弁証学 ⑤ パネンベルクの下からの神学 ⑥ 「人間の神探究」と「下からの神学」の不可能 ⑦ Geborgenheit とその根拠 ⑧ 宗教の社会的効用 ⑨ 神話的表象の効用 ⑩ 反キリスト教的無神論の意味と限界 ⑪ フォイエルバッハ、マルクス、ニーチェ、フロイト ⑬ 無神論的自由と自由のキリスト教的根拠 ⑭ キリスト教の絶対性 ⑮ 宗教の相対的評価 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 授業の中で指示する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で指示する</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 参加意識をもって出席し、レポートを提出することによる</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習 I a	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 通年(a,b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 前期は E・ブルンナーの『教義学 II』の創造論を読みながら、正統的な創造についての教理を学ぶ。ここでは、教理史上の基礎知識を確認しながら、共通理解を深めることが求められる。</p>	
<p><授業の概要> 教科書的に組織だっって論じられているテキストであるが、それだけに内容は凝縮している。それを丁寧に解きほぐすことに心がけたい。担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらい、討論する。</p>	
<p><履修条件> 聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画> 第1回：キリスト教神学における創造論の意義について、序論的な考察と問題提起をする。 第2回：上記テキスト 13-33 頁の内容を検討する。 第3回：テキスト 33-52 頁の内容を検討する。 第4回：テキスト 53-76 頁の内容を検討する。 第5回：テキスト 77-95 頁の内容を検討する。 第6回：テキスト 96-117 頁の内容を検討する。 第7回：テキスト 117-136 頁の内容を検討する。 第8回：テキスト 137-152 頁の内容を検討する。 第9回：テキスト 153-168 頁の内容を検討する。 第10回：テキスト 169-193 頁の内容を検討する。 第11回：テキスト 193-211 頁の内容を検討する。 第12回：テキスト 212-234 頁の内容を検討する。 第13回：テキスト 235-263 頁の内容を検討する。 第14回：テキスト 264-286 頁の内容を検討する。 第15回：これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってテキストをよく読んでくること。</p>	
<p><テキスト> E・ブルンナー『ブルンナー著作集第3巻 教義学 II』佐藤敏夫訳、教文館、1997年。各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて授業内で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出してもらう。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習 I b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 通年(a,b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 後期は J・モルトマンの『創造における神』を読みながら、チャレンジングな試みを批判的に検討する。ここでは、意欲的な神学的試みに対して、正統的な立場から批判的な吟味をすることが求められる。</p>	
<p><授業の概要> 大胆な提言や斬新な教理の解釈に対して、内容をよく消化した上で、議論することが肝要である。担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらい、討論する。</p>	
<p><履修条件> 聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画> 第1回：上記テキスト 20-43 頁の内容を検討する。 第2回：テキスト 46-74 頁の内容を検討する。 第3回：テキスト 74-106 頁の内容を検討する。 第4回：テキスト 106-135 頁の内容を検討する。 第5回：テキスト 135-159 頁の内容を検討する。 第6回：テキスト 162-191 頁の内容を検討する。 第7回：テキスト 191-224 頁の内容を検討する。 第8回：テキスト 224-252 頁の内容を検討する。 第9回：テキスト 253-282 頁の内容を検討する。 第10回：テキスト 283-315 頁の内容を検討する。 第11回：テキスト 318-354 頁の内容を検討する。 第12回：テキスト 356-387 頁の内容を検討する。 第13回：テキスト 387-428 頁の内容を検討する。 第14回：テキスト 430-461 頁の内容を検討する。 第15回：これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってテキストをよく読んでくること。</p>	
<p><テキスト> J・モルトマン『創造における神 生態論的創造論』沖野政弘訳、新教出版社、1991年、各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて授業内で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出してもらう。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅱ a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>組織神学演習Ⅱb と通年で履修（登録）することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学関係の重要著作の精読を通して、対象となる思想家の神学思想の世界を理解し、さらには、それを手がかりにして、神学的思考能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 二〇世紀最大の神学者の一人、カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読を通して、その思想の内容と特色を理解する。今回は創造論中の人間論。</p>	
<p><履修条件> (なし)</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション、およびバルトの思想の概要の紹介</p> <p>第2回 神の契約相手に定められた人間①イエス、他人のために生きる人間（その1）：テキスト3～19頁</p> <p>第3回 同（その2）：テキスト19～44頁</p> <p>第4回 同②人間性の根本形式（その1）：テキスト45～66頁</p> <p>第5回 同（その2）：テキスト66～88頁</p> <p>第6回 同（その3）：テキスト89～106頁</p> <p>第7回 同（その4）：テキスト106～112頁</p> <p>第8回 同（その5）：テキスト112～131頁</p> <p>第9回 同（その6）：テキスト131～143頁</p> <p>第10回 同（その7）：テキスト143～165頁</p> <p>第11回 同（その8）：テキスト165～189頁</p> <p>第12回 同③比喻および希望としての人間性（その1）：テキスト190～214頁</p> <p>第13回 同（その2）：テキスト214～232頁</p> <p>第14回 同（その3）：テキスト232～256頁</p> <p>第15回 同（その4）：テキスト256～273頁</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず事前にテキストに目を通して、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅱ／2』、菅岡吉・吉永正義訳（新教出版社、オンデマンド）。</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度、期末のレポートによる。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅱb	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>組織神学演習Ⅱaと通年で履修（登録）することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学関係の重要著作の精読を通して、対象となる思想家の神学思想の世界を理解し、さらには、それを手がかりにして、神学的思考能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 二〇世紀最大の神学者の一人、カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読を通して、その思想の内容と特色を理解する。今回は創造論中の人間論。</p>	
<p><履修条件> （なし）</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 精神とからだとしての人間①イエス、全き人間（その1）：テキスト 275～289 頁</p> <p>第2回 同（その2）：テキスト 289～307 頁</p> <p>第3回 同（その3）：テキスト 307～314 頁</p> <p>第4回 同②精神とからだの根拠としての霊（その1）：テキスト 315～326 頁</p> <p>第5回 同（その2）：テキスト 326～337 頁</p> <p>第6回 同（その3）：テキスト 337～353 頁</p> <p>第7回 同（その4）：テキスト 354～362 頁</p> <p>第8回 同③その共属性の中での精神とからだ（その1）：テキスト 363～390 頁</p> <p>第9回 同（その2）：テキスト 390～411 頁</p> <p>第10回 同（その3）：テキスト 411～420 頁</p> <p>第11回 同④その特殊性の中での精神とからだ（その1）：テキスト 421～431 頁</p> <p>第12回 同（その2）：テキスト 431～446 頁</p> <p>第13回 同（その3）：テキスト 446～474 頁</p> <p>第14回 同⑤その秩序の中での精神とからだ（その1）：テキスト 475～492 頁</p> <p>第15回 同（その2）：テキスト 492～514 頁</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず事前にテキストに目を通して、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅱ／2』、菅田吉・吉永正義訳（新教出版社、オンデマンド）。</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度、期末のレポートによる。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
信条学	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 専攻に関係なく登録可。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。また教義学の項目に沿って、信条の神学を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 最初は古代教会の基本信条を取り上げ、次いで宗教改革期の代表的な信条を顧みる。なお授業の後半でロールスのテキストの各項目を一つずつ読み、実際に信条本文に触れながら、その神学的意味を考える。</p>	
<p><履修条件> 大学院博士課程前期・後期に在籍している者は誰でも履修できる。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：信条・信仰告白とはキリスト者にとって何を意味するかを考察する。</p> <p>第2回：使徒信条を学ぶ。またロールスのテキスト「啓示、神の言葉、伝統」の項目を読む。</p> <p>第3回：ニケア・コンスタンティノポリス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「神の本性と三位一体論」の項目を読む。</p> <p>第4回：アタナシオス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「創造と摂理」の項目を読む。</p> <p>第5回：カルケドン信条を学ぶ。またロールスのテキスト「人間と罪」の項目を読む。</p> <p>第6回：ルター大・小教理問答を学ぶ。またロールスのテキスト「恵みの契約と和解」の項目を読む。</p> <p>第7回：アウグスブルク信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「キリスト論とカルヴァン主義的な外部」の項目を読む。</p> <p>第8回：ジュネーヴ教会信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「義認と信仰」の項目を読む。</p> <p>第9回：フランス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖化と悔改め」の項目を読む。</p> <p>第10回：第一・第二スイス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「選びと棄却」の項目を読む。</p> <p>第11回：スコットランド信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「教会とそのしるし」の項目を読む。</p> <p>第12回：ハイデルベルク信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「御言葉と聖礼典」の項目を読む。</p> <p>第13回：ドルト信仰規準を学ぶ。またロールスのテキスト「神の言葉の二様態」の項目を読む。</p> <p>第14回：ウェストミンスター信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「洗礼」の項目を読む。</p> <p>第15回：日本基督教団信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖餐」の項目を読む。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってその時の信条テキストに目を通しておくとよい。教室で渡す資料をよく整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 『信条集 前後篇』新教出版社、1994年。各自購入すること。</p>	
<p><参考書> J・ロールス『改革教会信仰告白の神学』一麦出版社、2009年。研究室にて割引価格で頒布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での発表、レポートを総合的に評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学 I	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件> 狭義の組織神学および実践神学で修士論文を書こうとする者
<授業の到達目標及びテーマ> 各自の論文の準備。	
<授業の概要> 問題意識の整理、主要文献の確定、その読解の報告、論文の作業仮説の発見。数名ずつ発表して貰う。	
<履修条件> 2014年度に組織神学および実践神学で修士論文を提出しようとする者は必修。	
<授業計画> 第1回 オリエンテーション I. 修士論文計画書に基づく、各自の関心の発表 第2回 II. 各自の関心についての全体的背景についてのリサーチと報告① 第3回 同② 第4回 同③ 第5回 III. 問題意識の再整理 第6回 IV. 基本文献の読書報告(1)① 第7回 同② 第8回 同③ 第9回 V. 基本文献の読書報告(2)① 第10回 同② 第11回 同③ 第12回 VI. 基本文献の読書報告(3)および作業仮説の提示① 第13回 同② 第14回 同③ 第15回 一学期の歩みを振り返る	
<準備学習等の指示> 修士論文の準備に可能な限りの熱意をもって取り組むこと。	
<テキスト> (特になし。)	
<参考書> (特になし。)	
<学生に対する評価(方法・基準)> 発表および授業への参加度による。	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学Ⅱ	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 狭義の組織神学および実践神学で修士論文を書こうとする者
<授業の到達目標及びテーマ> 修士論文の完成。	
<授業の概要> 各自の進捗状況を報告してもらいながら、問題点、改善すべき点などを論じる。論文の形式面についても指導する。	
<履修条件> 2013年度中に組織神学および実践神学で修士論文の提出を予定する者は必修。	
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 Ⅰ．進捗状況についての全般的な報告① 第3回 同② 第4回 同③ 第5回 Ⅱ．作業仮説、目次、文献表の提示① 第6回 同② 第7回 同③ 第8回 Ⅲ．執筆状況の報告（1）① 第9回 同② 第10回 同③ 第11回 Ⅳ．執筆状況の報告（2）① 第12回 同② 第13回 同③ 第14回 同④ 第15回 Ⅴ．提出への最終準備・体裁等の確認	
<準備学習等の指示> 各指導教授の指導を仰ぎながら、論文作成に全力で取り組むこと。	
<テキスト> (特になし。)	
<参考書> (特になし。)	
<学生に対する評価（方法・基準）> 論文提出を前提とし、発表および授業への参加度によって評価する。	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習 I a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「洗礼、聖餐、教会と職務―中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要> 前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コースの紹介。履修者との導入討議。 第2回：発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生2～3名） 第3回：発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生2～3名） 第4回：資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書） 第5回：資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン） 第6回：資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白。「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など） 第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」） 第13回：資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論1（改革―長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他） 第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 『洗礼・聖餐・職務―教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。各自用意。</p>	
<p><参考書> A.E.マッグラース『宗教改革の思想』（教文館）。 他は、授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 発表を除き、平生は資料研究中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。現代神学と実践の立場からそれら教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰め25枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習 I b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「洗礼、聖餐、教会と職務－中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要> 後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コース紹介。履中者との導入討議。 第2回：発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。（学生2～3名） 第3回：発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名） 第4回：資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書） 第5回：資料研究（二） 同上 2（トマス・アクイナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等） 第6回：資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代のカトリックの諸教令など） 第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」） 第13回：資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革－長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他） 第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 『洗礼・聖餐・職務－教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。</p>	
<p><参考書> A.E.マクグラース『宗教改革の思想』（教文館）。 他は、授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 発表を除き、平生は資料研究センターなので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自教会と職務のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。そして現代神学と実践の立場から教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰め25枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講 I a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「日米欧比較神学思想史」。講義と質疑応答により、近代・現代の日本キリスト教神学思想史の特質を欧米教会のそれら比較しつつ、歴史神学的に理解する。</p>	
<p><授業の概要> 前期では、先ず従来の神学思想史研究の方法を批判する。次に日米欧の神学思想家たちの代表的なテキストを講義により分析する。今期は、十八～十九世紀後半までの各国思想家を取り上げる。</p>	
<p><履修条件> 組織神学専攻者が履修することが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コースの紹介。予備講義「国際－教会関係史的視点とはなにか」。</p> <p>第2回：講義（一） 日米教会史の研究史（大内三郎、石原謙、S. E. オールストローム）</p> <p>第3回：講義（二） 日米プロテスタント神学思想史解釈史（熊野義孝、古屋安雄、オールストローム）</p> <p>第4回：講義（三） 日米教会史の結合点としての「日本基督公会」運動と対抗運動について。</p> <p>第5回：資料分析（一） 十七世紀英米の改革派－ピューリタン神学（T. フッカー）</p> <p>第6回：資料分析（二） 十八世紀英米メソジストおよび改革派－ピューリタン神学（J. ウェスレー、J. エドワーズ）</p> <p>第7回：資料分析（三） 十九世紀の米国の新派カルヴァン主義神学およびメソジスト・ホーリネス神学（N. W. テイラー、D. D. ウィードン）</p> <p>第8回：資料分析（四） 日米の新派カルヴァン主義神学およびメソジスト・ホーリネス神学（E. A. パークと新島襄、本多庸一と山田寅之助）</p> <p>第9回：資料分析（五） 十九世紀後半の米国の旧派カルヴァン主義神学（C. ホッジ、宣教師アメルマン）</p> <p>第10回：資料分析（六） 十九世紀後半の日本の福音主義的調停的神学（植村正久）</p> <p>第11回：資料分析（七） 十九世紀前半の米国の合理主義的自由主義神学（W. E. チャニング）</p> <p>第12回：資料分析（八） 十九世紀後半の日本の合理主義的自由主義神学（金森通倫）</p> <p>第13回：資料分析（九） 十九世紀のドイツ・ロマン主義神学（シュライエルマッヘル、海老名弾正）</p> <p>第14回：資料分析（十） 十九世紀の米国のロマン主義的自由主義神学（エマーソン）</p> <p>第15回：資料分析（十一） 十九世紀後半の日米のロマン主義的自由主義神学（ブッシュネル、小崎弘道）</p>	
<p><準備学習等の指示> 特にない。</p>	
<p><テキスト> S. Ahlstrom, <i>Theology in America</i> (1967)。他にコピー資料を配付する。講師が用意。</p>	
<p><参考書> 1. S. E. オールストローム『アメリカ神学思想史入門』（教文館、1990）。 2. 熊野義孝『日本キリスト教神学思想史』（新教出版社、1968）。</p>	
<p><学生に対する評価></p> <p>1. 学期末に、欧米の神学思想家一名と、日本の思想家の一人を選択し、彼らの神学思想を比較し、「国際－教会関係史」を踏まえたテキストの分析を行い、レポートを作成する。</p> <p>2. 期末レポートの分量は、400字詰め原稿用紙で25枚程度とする。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講 I b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「日米欧比較神学思想史」。講義と質疑応答により、近代・現代の日本キリスト教神学思想史の特質を欧米教会のそれら比較しつつ、歴史神学的に理解する。</p>	
<p><授業の概要> 後期では、十九世紀後半から二十世紀の日米欧の神学思想家たちの代表的なテキストを講義により分析する。</p>	
<p><履修条件> 組織神学専攻者が履修することが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： コースの紹介。 後期参加者へのガイダンス。 第2回： 資料分析（一） 十九世紀米国の高教会神学（P. シャフ） 第3回： 資料分析（二） 同上（ネヴィン） 第4回： 資料分析（三） 二十世紀前半の日本の高教会神学（逢坂元吉郎） 第5回： 資料分析（四） 十九世紀後半の米国の保守主義神学（C. P. クラウス） 第6回： 資料分析（五） 二十世紀後半の日本の保守主義神学（岡田稔） 第7回： 資料分析（六） 二十世紀の米国社会実践の神学（ラウシェンブッシュ） 第8回： 資料分析（七） 同上 日本の社会実践の神学（賀川豊彦） 第9回： 資料分析（八） 同上 （中島重と SCM 運動） 第10回： 資料分析（九） 二十世紀の欧米新正統主義神学（K. バルト、H. R. ニーバー） 第11回： 資料分析（十） 二十世紀の日本における新正統主義神学（熊野義孝） 第12回： 資料分析（十一） 同上 （北森嘉蔵） 第13回： 資料分析（十二） 二十世紀の米国福音主義神学（D. プローシュ） 第14回： 資料分析（十三） 同上 日本の福音主義神学（佐藤敏夫） 第15回： まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 特にない。</p>	
<p><テキスト> S. Ahlstrom, <i>Theology in America</i> (1967)。他にコピー資料を配付する。</p>	
<p><参考書> 1. S. E. オールストローム『アメリカ神学思想史入門』（教文館、1990）。 2. 熊野義孝『日本キリスト教神学思想史』（新教出版社、1968）。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 学期末に、欧米の神学思想家一名と、日本の思想家の一人を選択し、彼らの神学思想を比較し、「国際－教会関係史」を踏まえたテキストの分析を行い、レポートを作成する。 2. 期末レポートの分量は、400字詰め原稿用紙で25枚程度とする。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史特講 I a	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> 古代教会におけるキリスト論と三位一体論の形成と展開を学ぶ。前期には、使徒教父からアレキサンドリア学派までを扱う。必要に応じて、一次史料を読んで、発表してもらう。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：使徒教父に見られるキリスト論の特色及び三位一体論の萌芽的な言及を概観する。 第2回：ユステイノス『第一弁明』に見られるロゴス・キリスト論の特色について。 第3回：弁証家に見られる三位一体論の萌芽。祈りの法則と信仰の法則の関係。 第4回：反グノーシスの教父のキリスト論と三位一体論①エイレナイオス 第5回：反グノーシスの教父のキリスト論と三位一体論②テルトゥリアヌス 第6回：グノーシス主義とキリスト教教理の展開 第7回：モナルキアニズムの実像 第8回：モンタニズムの実像と三位一体論形成への影響再考 第9回：古代教会における聖餐と洗礼と三位一体論 第10回：アレキサンドリア学派の神学の特色 第11回：アレキサンドリアのクレメンスのキリスト論と三位一体論 第12回：オリゲネス『諸原理について』のキリスト論と三位一体論 第13回：聖霊の神学の形成と展開 第14回：中期プラトン主義の影響と三位一体論 第15回：全体に関わる質疑応答とディスカッション。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教理史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> ケリー『初期キリスト教教理史上』（一麦出版社、2500円）</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）、その他は、都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と小論文（400字×15枚）</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史特講 I b	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> 古代教会におけるキリスト論と三位一体論の形成と展開を学ぶ。ニカイアの教父からアウグスティヌスまでを後期は扱う。必要に応じて、一次史料を読んで、発表してもらう。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 第1回：ニカイア会議に至る道概観 第2回：アレイオス論争とアレイオスの思想 第3回：4世紀初頭のアレキサンドリアの現状とエウセビオスの政治神学概観 第4回：アタナシオスと教会 第5回：アタナシオス神学の特色とキリスト論 第6回：初期修道制と教理論争 第7回：ヒラリウス『三位一体論』と西方における三位一体論 第8回：カパドキアの三教父の生涯と神学 第9回：バシレイオス『聖霊論』を読む 第10回：ナジアンゾスのグレゴリオス『神学講話』を読む 第11回：カパドキア教父の後期アレイオス主義 第12回：アウグスティヌスの生涯と神学形成 第13回：アウグスティヌス神学の特色 第14回：アウグスティヌス『三位一体論』を読む。 第15回：全体のまとめと質疑。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教理史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> ケリー『初期キリスト教教理史下』（一麦出版社、2500円）。</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と小論文（400字×15枚）</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学 I	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 修士論文作成のための訓練を行う。特に一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を確認した上で、修士論文の作成指導を行う。</p>	
<p><授業の概要> 歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねる。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一次史料の読み方：史料の読解 2 一次史料の分析 3 二次史料の読み方：歴史神学の学術論文の読解 4 二次史料の分析 5 論文の構想 6 論文の表現方法 7 参考文献と注 8 修士論文の中間発表：主題の提示 9 修士論文の中間発表：全体の構成 10 修士論文の中間発表：主題の展開 11 修士論文の中間発表：校正と注 12 歴史神学論文の特色 13 修士論文をめぐる討議：史料の読解と扱い 14 修士論文をめぐる討議：構成と表現 15 総括とまとめ 	
<p><準備学習等の指示> N. Cantor, How to Study History を復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 特に定めない。</p>	
<p><参考書> その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献、発表、小論文</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>修士論文作成のための基礎知識の習得と訓練を行う。特に一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を身につけることを目標とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねるとともに、研究を深める。Cantor, How to Study History を読みながら、歴史神学の論文作成の方法を学ぶ。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>I 歴史神学の論文を書くための基礎作業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史神学とは テキスト発表① A Matter of Definition 2 一次史料と二次史料 テキスト発表② The Materials of History 3 一次史料を読む テキスト発表③ How to Use Primary Sources i 4 一次史料を読む テキスト発表④ How to Use Primary Sources ii 5 二次史料を読む テキスト発表⑤ How to Read Secondary Sources i 6 二次史料を読む テキスト発表⑥ How to Read Secondary Sources ii 7 歴史神学論文を読む テキスト発表⑦ A Practical Lesson in How to Read a History Book i 8 歴史神学論文を読む テキスト発表⑧ A Practical Lesson in How to Read a History Book ii <p>II 修士論文作成の準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 作成の注意と準備 10 論文の計画と執筆、注のつけ方 11 論文計画発表① 12 論文計画発表② 13 論文計画発表③ 14 ディカッション 15 まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>学部演習のテキストを読みなおして、復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Norman Cantor, How to Study History 関川が準備する。</p>	
<p><参考書></p> <p>その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスでの貢献、発表、小論文</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特講 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>欧米において教会教育が学として確立していることを把握し、その事例を学びつつ、日本の文脈で生かす可能性を探る。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>今年度は実践神学における教会教育について学ぶ。前期は欧米における最近の教会教育学の動向と学問状況を概観し、その後、一例として、北米のキリスト教教育学者の一人、リチャード・オズマーの教会教育論を学ぶ。最後に、教会教育的視点から実践神学とは何かを振り返って考える。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教会教育とは何かー教会教育への関心ー 2. 多彩な教会諸活動における教会教育 3. 福音主義教会の教育的責任 4. 教会教育学の概念 5. 福音のコミュニケーション 6. 信仰による学習と生の場所としての教会 7. キリスト者要理について 8. オズマー著書、8章前半（発表） 9. オズマー著書、8章後半（発表） 10. オズマー著書、9章（発表） 11. オズマー著書、10章前半（発表） 12. オズマー著書、10章後半（発表） 13. オズマー著書、11章後半（発表） 14. オズマー著書、11章後半（発表） 15. <むすび> 教会教育と実践神学 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>前期授業の前半は講義をし、後半は Richard Robert Osmer, <i>The Teaching Ministry of Congregations</i>, Louisville, Kentucky 2005 の Part3 : Chapter8~11（プリントでも配布）の中から受講者が授業時に分担してレポート発表をし、共同討論する。最後に、教会教育的視点から実践神学について考察した講義をする。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朴憲郁、「教会教育学の出現とその特性」、『キリスト教教育論集』第20号、日本キリスト教教育学会、2012年3月、1~15頁 ・Richard Robert Osmer, <i>The Teaching Ministry of Congregations</i>, Louisville, Kentucky 2005 	
<p><参考書></p> <ul style="list-style-type: none"> ・R.R.Osmer, <i>Teaching for Faith: A Guide for Teachers of Adult Classes</i>, Louisville, Kentucky 1992. ・G.Adam/R.Lachmann, Hg, <i>Gemeindepädagogisches Kompendium</i>, Göttingen 1994 ・B.Neumann/A.Rösener, <i>Kirchenpädagogik</i>, Gütersloh 2003. ・R.R.Osmer/F.Schweitzer(ed.), <i>Developing a Public Faith : New Derection in Practical Theology</i>, Saint Louis 2003. ・R.R.Osmer, <i>Practical Theology, An Introduction</i>, Grand Rapids, 2008. ・Gottfried Adam/Rainer Lachmann(Hg.), <i>Neues Gemeindepädagogisches Kompendium</i>, Göttingen 2008. 	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業時の各発表と、授業時の参加度（発表内容の討論への参加、質問、発言など）等を加えて、評価する。従って、学期末の定期試験/筆記試験はない。出席が全授業の2/3を満たす場合に評価の対象とする。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特講 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>二千年の教会形成において不可欠であった受洗志願者教育の重要性を認識し、それを日本の教会に実践的に生かす基礎を確立する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>後期は、受洗志願者の洗礼執行（キリスト教入信式）を巡る一連の教会教育に焦点を当てる。教会教育の中心にある洗礼を巡る教育、特に「キリストの体」に加入する儀礼としての受洗志願者教育について、歴史的・礼拝学的・宗教教育学的に考察する。成人洗礼がまず考えられるが、それに伴って必然的に、乳幼児洗礼と堅信礼・聖餐式参与など、一連の入信儀礼についても取り上げる。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論－このテーマの今日的な問題意識－ 2. 古代教会の洗礼・堅信礼 3. カテクメナート（洗礼志願者教育）の諸段階 4. 中世教会 <ul style="list-style-type: none"> 一定期間に統一的になされる入信儀礼（成人洗礼、幼児洗礼、堅信礼、礼拝・聖餐式参与）は分解された。 5. プロテスタント教会－宗教改革者、敬虔主義者、 6. プロテスタント教会－啓蒙主義者、現代 7. 今日の教会教育－成人洗礼・堅信礼後の教育 8. 入信儀礼（特に洗礼）の一致運動－諸教派の理解と実践－ 9. カトリック教会の典礼刷新：古代の入信儀礼の再考と今日的実践、エキュメニカル運動として 10. 幼児洗礼と堅信礼（信仰告白） 11. 日本の教会と教会学校の今日的課題 12. 教会学校が目指すもの－洗礼・堅信礼－ 13. 受洗・堅信者の受洗後の教会生活 14. 伝道（evangelism）としての入信儀礼という視点 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講義と共に、受講生にも随時レポート発表していただく。毎授業で扱うテキスト、資料を事前に読んで、理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朴 憲郁、「洗礼・堅信を巡る教会教育」－歴史的考察－、『紀要』5、東京神学大学総合研究所、2002年 ・朴、平野 監修／執筆、『10代と歩む洗礼・堅信への道』、日本キリスト教団出版局、2013年1月 	
<p><参考書></p> <p>授業の中で随時紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業時の発表・参加度、または定期試験（レポート提出）によって評価する。 出席が2/3以上の出席者を評価の対象とする。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
実践神学演習 a	山口 隆康
前期・2単位	<登録条件>教会・キリスト教学校に赴任する意志の明確な者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学演習は、実践神学の3領域、説教学、礼拝学、牧会学を扱う演習である。</p>	
<p><授業の概要> 今年度の実践神学演習は、「伝道と説教」をテーマとして扱う。説教が直面している焦眉の神学的課題がどこにあるかを探求する。その後、「説教と伝道」「説教と教会形成」「説教者論」あつかう。演習を進めるにあたり、説教論の点検と吟味、再検討という課題、とくに今後の伝道地日本における説教はいかにあるべきかを目標とする。</p>	
<p><履修条件> Eメールで長文を送信できること（携帯メールも可）</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：伝道地としての日本と説教論（1）、焦眉の課題とは何か</p> <p>第2回：伝道地としての日本と説教論（2）、伝道論と福音を語るコトバ</p> <p>第3回：伝道地としての日本と説教論（3）説教と神学的思考</p> <p>第4回：これまでの説教論の再検討（1）説教をめぐる諸問題</p> <p>第5回：これまでの説教論の再検討（2）説教をめぐる諸課題</p> <p>第6回：これまでの説教論の再検討（3）説教と教会建設（教会形成）</p> <p>第7回：これからの説教の課題、（1）受洗者を産み出す説教</p> <p>第8回：これからの説教の課題、（2）聖餐の食卓への招きとしての説教</p> <p>第9回：これからの説教の課題、（3）神の民をあつめる説教</p> <p>第10回：これからの説教の課題、（4）説教と神の国</p> <p>第11回：説教と「説教の神学」（1）説教の課題と教義学</p> <p>第12回：説教と「説教の神学」（2）説教の課題と旧約聖書</p> <p>第13回：説教と「説教の神学」（3）説教の課題と新約聖書</p> <p>第14回：伝道をと教会建設を進めるこれからの説教</p> <p>第15回：伝道を進めるこれからの説教者</p>	
<p><準備学習等の指示> 『伝道の幻に生きる教会建設』山口隆康著、美竹文庫第1巻（日本基督教団美竹教会ホームページ参照）</p>	
<p><テキスト> 山口隆康著 『21世紀伝道の幻Ⅱ』日本基督教団玉川平安教会出版部刊</p>	
<p><参考書> 演習の中で必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 原則として演習中の発表による評価。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特研	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>近代日本におけるキリスト教的人間観を、それを唱える人物と時代状況は異なれど、一貫したものがあり、それが今日まで射程が及ぶことを認識する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>近代日本におけるキリスト教的人間観が明治維新以来どのように主張され、教育の場で実践的に確立されていったかを辿る。このためのテキストとして第一に、武田清子編、『日本プロテスタントの人間形成論』を用いる。第二に、第二次世界大戦後に制定された教育基本法（1947年）の起草に係わった二人の学者（南原繁、田中耕太郎）のキリスト教的人間観と教育政策論を、拙論テキストによって学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教教育の人間形成論 2. 横浜よりの書簡(J・C・ヘボン) 3. 日本人の人間改造論（中村正直） 4. 同志社教育のヴィジョン（新島襄） （同志社設立の始末記、同志社大学の旨意） 5. 教育と宗教の衝突論争（植村正久、柏木義円、他） 6. キリスト教と愛国（内村鑑三の「二つのJ」） 7. 我が教育の欠陥（新渡戸稲造） 8. 基督教的自我、人間の建設（高倉徳太郎） 9. 開塾主旨（津田梅子） 10. 現代教育の反省（安井哲子）、他（羽仁もと子） 11. 宗教の本質と教育の本質、大学と学問（矢内原忠雄） 12. 教育の目指す人間像 13. 南原繁の「国家と宗教の教育」 14. 田中耕太郎の「道徳と宗教の教育」 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講義と共に、受講生にも随時レポート発表をしていただくセミナー方式を取る。発表者以外の人、テキストの該当範囲を予習熟読することを望む。</p>	
<p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 武田清子編、『日本プロテスタント 人間形成論』、世界教育学選集 29、1963年、明治図書。（絶版のため、担当教師がプリントで用意する）。 2. 朴憲郁、「国家と宗教教育－南原繁の政治思想から学ぶ－」、「日本における道徳と宗教の教育－田中耕太郎の場合」 	
<p><参考書></p> <p>宇野美恵子、『教育の復権』－大正自由主義教育と自己超越の契機、国際書院、1990年 キリスト教学校教育同盟刊、『日本キリスト教教育史』－思潮編－、創文社、1993年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的意見表明と討論への参加度、 2. 授業時や学期末に提出するレポート 3. 全授業の2/3以上の出席をもって評価対象とする。 	

組織神学専攻・実践神学関係	
臨床牧会教育 b	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> ＊オリエンテーション ＊院長による精神病理の講義。病院見学。 ＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 ＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 ＊各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専攻間共同科目	
日本伝道論演習 a	山口 隆康
前期・2単位	<登録条件> 「牧者」となる意志の明確な者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学の中に位置づけられた「日本伝道論」は、説教学、礼拝学、牧会学を統合する教会実践を伝道地日本においてどのように進めるかを取り扱う。</p>	
<p><授業の概要> 日本伝道論 a の演習のテーマとして「これからの日本基督教団の伝道」という課題に取り組む。教会法的視点を導入し、そこから日本基督教団という教会の実態を把握する作業に入り、日本基督教団という教会の直面している諸問題に接近する。</p>	
<p><履修条件> 日本基督教団を中心に扱うが、日本伝道がテーマである。日本伝道に関心があれば、所属教団、教派、教会を問わない。履修を歓迎する。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：教会論と教会法、日本基督教団の教会としての「かたち」</p> <p>第2回：福音主義教会、とくに日本基督教団における教憲・教規をめぐる諸問題</p> <p>第3回：教会法と宗教法、「日本基督教団教憲・教規」と「宗教法人法」の問題</p> <p>第4回：日本基督教団法制史 その1 日本基督教団の成立と教会規則</p> <p>第5回：日本基督教団法制史 その2 宗教団体法と日本基督教団規則</p> <p>第7回：教会建設(形成)と日本基督教団の「教憲」について</p> <p>第8回：伝道論の課題としての「全体教会と個教会」</p> <p>第9回：伝道論と洗礼・聖餐論</p> <p>第10回：伝道論と教職制度</p> <p>第11回：伝道論と「会議制」</p> <p>第12回：伝道論と信徒論</p> <p>第13回：伝道する教会の形成、その1 教会形成と説教</p> <p>第14回：伝道する教会の形成、その2 教会形成と牧会</p> <p>第15回：これからの教会建設(形成)と伝道者像</p>	
<p><準備学習等の指示> 『日本基督教団教憲・教規および諸規則』を手元におき、すぐに参照できるようにしておくこと。</p>	
<p><テキスト> 演習において配布する。</p>	
<p><参考書> 『伝道の幻に活きる教会建設』(美竹教会文庫1)あるいは『21世紀伝道に幻 II』(玉川平安教会出版部)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 原則としてレポートによる。</p>	

専門教育科目・専攻間共同	
アジア伝道論演習 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、20世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伝道(宣教)学とは何か 2. キリスト論的三位一体論における諸宗教との対話(その1) 3. キリスト論的三位一体論における諸宗教との対話(その2) 4. 韓国におけるキリスト論的三位一体論の展開の試みとその批判 (以下、テキストに従って、5～14まで学生発表と講義) 5. 議論の背景 6. 権威の問題 7. 三位一体の神の宣教 8. 御父の御国を宣べ伝えることー信仰としての宣教ー 9. 御子の生を分かち合うことー愛としての宣教ー 10. 聖霊の証しを担うことー希望としての宣教ー 11. 福音と世界の歴史 12. 神の正義のための行動としての説教 13. 教会成長、改宗、文化 14. 諸宗教の中の福音 15. アジア伝道の反省と展望(まとめ) 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010年。</p>	
<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology - Focused on Christology -, 『神学』72号、東京神学大学神学会、2010年、教文館、143～166頁 	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業時の発表、参加度、学期末レポート(4000～6000字)によって評価する。</p> <p>出席が2/3以上の者を評価の対象とする。</p>	

専門教育科目・専攻間共同	
アジア伝道論演習 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような視野と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。同時に、それによる福音伝道の意義と課題への理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北・東南アジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序説ーアジア・キリスト教伝道論ー (以下、3～14まで学生発表と講義) 2. 韓国のキリスト教 初期とカトリック教会 3. 韓国のキリスト教 プロテスタント教会 4. 中国のキリスト教 初期とカトリック教会 5. 中国のキリスト教 プロテスタント教会 6. 台湾のキリスト教 初期とカトリック教会 7. 台湾のキリスト教 プロテスタント教会 8. 香港のキリスト教 9. フィリピンのキリスト教、その1 10. フィリピンのキリスト教、その2 11. タイのキリスト教 12. マレーシアのキリスト教 13. ミャンマー、カンボジアのキリスト教 14. インドネシアのキリスト教 15. アジア伝道の反省と展望 (まとめ) 	
<p><準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト> 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年 初版、重版。今絶版のため、プリント配布など、授業時にテキスト使用について指示する。</p>	
<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 朴論文、「日本プロテスタント伝道の一考察ーアジア伝道の視点からー」、『神学』、71号、2009年12月、89～111頁、 2. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989年三版、 3. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。 	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業時の発表、参加度、学期末レポート(4000～6000字)によって評価する。 出席が2/3以上の者を評価の対象とする。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習 I	山口隆康 小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ> 説教学の基本を学び、説教作成の方法を身につける。	
<授業の概要> 説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、最初の黙想から説教行為までの実際に取り組む。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 説教学の課題</p> <p>第2回 説教とコトバ、説教テキストの朗読</p> <p>第3回 黙想、第一の黙想、説教黙想</p> <p>第4回 作成（1）第一の黙想</p> <p>第5回 作成（2）テキストの本文批評と私訳</p> <p>第6回 釈義と説教準備</p> <p>第7回 作成（3）テキストの釈義</p> <p>第8回 「解釈と適用」の問題</p> <p>第9回 説教黙想とは何か</p> <p>第10回 会衆をめぐる黙想</p> <p>第11回 説教黙想の実例</p> <p>第12回 作成（4）説教黙想</p> <p>第13回 説教の構造と構成</p> <p>第14回 説教の始め方と終わり方</p> <p>第15回 説教の演述</p>	
<準備学習等の指示> 聖書全巻の通読しておくこと。	
<テキスト>	
<参考書> テーマごとに教室で指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。遅れて提出することは認められないので、その都度必ず提出すること。	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅱ	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 説教学演習Ⅰを履修済み(予定)
<p><授業の到達目標及びテーマ> 説教学の基本を学び、実際になされた説教を分析する方法を身につける。</p>	
<p><授業の概要> 説教分析の方法論を明確にし、実際になされた説教を取り上げて、説教分析に実際に取り組む。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 会衆席の説教学 第2回 説教分析論：なぜ説教を分析するのか 第3回 説教分析の方法：「分析素」の定め方 第4回 分析（1）第一印象の収集 第5回 印象批評と第一印象論 第6回 分析（2）説教の構造と構成 第7回 説教の構造と構成をめぐる問題 第8回 分析（3）説教における説教者 第9回 説教における説教者をめぐる問題 第10回 分析（4）説教における聞き手 第11回 説教における聞き手をめぐる問題 第12回 分析（5）説教と聖書テキスト 第13回 説教と聖書テキストをめぐる問題 第14回 分析（6）説教における神の名 第15回 説教における神の名</p>	
<p><準備学習等の指示> 聖書全巻の通読を続けること。配布される論文、説教を十分読んで準備すること。</p>	
<p><テキスト> 論文、説教などを教室で配布する。</p>	
<p><参考書> 加藤常昭『説教批判・説教分析』教文館、2008年。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度、レポートによって評価する。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅲ	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件>修士論文を提出し、卒業に備えている者
<p><授業の到達目標及びテーマ> テキストの釈義から黙想を経て説教を準備し、実際に説教するに至るまでの過程を体験することにより、説教者としての基本的な訓練を行う。</p>	
<p><授業の概要> 担当者を決め、指定された聖書テキストに従って説教を準備し、説教してもらう。また説教批評を共有することで、説教者としての自己吟味の能力をも養う。</p>	
<p><履修条件> 修士論文を提出し、受理されて、博士課程前期課程修了見込みである者。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 説教とは何かを考えながら、テキストの釈義、黙想、構成について考察する。</p> <p>第2回 マタイによる福音書25：14－30</p> <p>第3回 マルコによる福音書4：35－41</p> <p>第4回 ルカによる福音書18：18－23</p> <p>第5回 ヨハネによる福音書14：1－6</p> <p>第6回 ローマの信徒への手紙3：21－26</p> <p>第7回 コリントの信徒への手紙一 1：18－25</p> <p>第8回 フィリピの信徒への手紙3：12－16</p> <p>第9回 ヘブライ人への手紙4：14－16</p> <p>第10回 創世記4：1－16</p> <p>第11回 出エジプト記3：7－15</p> <p>第12回 詩編51：1－14</p> <p>第13回 イザヤ書43：1－7</p> <p>第14回 ヨハネ黙示録3：14－22</p> <p>第15回 総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 担当箇所を準備を入念にすること。また他の人の説教を聞いて、適切な批評をし、学び合うこと。</p>	
<p><テキスト> 新共同訳聖書</p>	
<p><参考書> 該当箇所の注解書、黙想集、説教集</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 演習に積極的に参加する姿勢が問われる（出席点）。その上で説教実習の内容を評価する。</p>	

実践神学研修課程	
礼拝学演習	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2014年4月に教会、学校に赴任する意志が明確であること
<授業の到達目標及びテーマ> 礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。	
<授業の概要> 主日礼拝を初めとして、その他の諸礼拝、結婚式、葬儀などの祈りの形式について学ぶ。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 礼拝学的思考の特質について</p> <p>第2回 キリスト教礼拝史（1）初代教会、古代教会の祈り</p> <p>第3回 キリスト教礼拝史（2）中世の教会とローマ典礼</p> <p>第4回 キリスト教礼拝史（3）宗教改革における礼拝改革</p> <p>第5回 キリスト教礼拝史（4）近代・現代の礼拝</p> <p>第6回 ローマ・カトリック教会における典礼の刷新</p> <p>第7回 東方教会の奉神礼</p> <p>第8回 日本基督教団の主日礼拝式と礼拝祈祷</p> <p>第9回 洗礼式</p> <p>第10回 聖餐礼典</p> <p>第11回 結婚式</p> <p>第12回 葬儀</p> <p>第13回 礼拝堂</p> <p>第14回 教会学校の礼拝</p> <p>第15回 家庭礼拝と牧会</p>	
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。	
<テキスト>	
<p><参考書></p> <p>W. ナーゲル『キリスト教礼拝史』教文館、1998年（オンデマンド） その他については授業中に紹介する。</p>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。	

実践神学研修課程	
牧会学演習	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2014年4月に教会、学校に赴任する意志が明確であること
<授業の到達目標及びテーマ> 実践神学を牧師学としてとらえ、牧師が身につけるべき基本を学ぶ。	
<授業の概要> 牧師が担うべき教務、牧師が実践活動を行う場面を一つずつ取り上げ、必要な知識と方法を身につける。	
<履修条件>	
<授業計画> 第1回 牧師学としての実践神学 第2回 召命と准允、按手 第3回 「牧師職」、赴任と離任 第4回 招聘制度と牧会 第5回 結婚と離婚 第6回 キリスト者の家庭と信仰の継承 第7回 病者の牧会 第8回 葬儀とその周辺 第9回 告解・面談 第10回 洗礼への導きと受洗準備 第11回 聖餐と牧会 第12回 教会戒規 第13回 教会会議（教会総会、役員会）と議長職 第14回 牧会と教会法 第15回 全体教会と個教会、教会の制度	
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。	
<テキスト>	
<参考書> E. トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ』『牧会学Ⅱ』日本基督教団出版局、1961、1970年（オンデマンド） その他については授業中に紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。	

実践神学研修課程	
総合特別講義	山口 隆康
後期・4単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2014年4月に教会・学校に赴任する意志の明確な者
<授業の到達目標及びテーマ>福音主義教会が現在直面している問題、課題に適切に対応していくために必要な学びである。	
<授業の概要>その分野の専門家が、テーマごとの講義を行うオムニバス形式の総合講義である。	
<履修条件>原則として全回出席できる者	
<p><授業計画></p> <p>第1回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団の成立前史</p> <p>第2回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団の成立</p> <p>第3回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団の成立と会派問題</p> <p>第4回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」教憲・教規、信仰告白の制定とその後の歩み</p> <p>第5回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」教団史と紛争史の視点</p> <p>第6回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」「教団紛争」とは何であったか？</p> <p>第7回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」紛争史の問題点と問題項目</p> <p>第8回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」紛争史の文脈における現在の日本基督教団</p> <p>第9回：大住雄一教授「日本基督教団論」日本基督教団教憲</p> <p>第10回：大住雄一教授「日本基督教団論」日本基督教団教規</p> <p>第11回：大住雄一教授「日本基督教団論」所属教会の教会規則（準則）</p> <p>第12回：大住雄一教授「日本基督教団論」宗教法人法と宗教法人規則</p> <p>第13回：栗林輝夫講師「部落解放とキリスト教Ⅰ」</p> <p>第14回：栗林輝夫講師「部落解放とキリスト教Ⅰ」</p> <p>第15回：東岡山治講師「部落解放とキリスト教Ⅱ」</p> <p>第16回：東岡山治講師「部落解放とキリスト教Ⅱ」</p> <p>第17回：小島誠志講師「地方伝道」</p> <p>第18回：小島誠志講師「地方伝道」</p> <p>第19回：岩田昌路講師「青年伝道」</p> <p>第20回：岩田昌路講師「青年伝道」</p> <p>第21回：本間義信講師「刑務所伝道」</p> <p>第22回：本間義信講師「刑務所伝道」</p> <p>第23回：春原禎光講師「ITと伝道」</p> <p>第24回：春原禎光講師「ITと伝道」</p> <p>第25回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」</p> <p>第26回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」</p> <p>第27回：篠浦千史講師「障がい者と教会」</p> <p>第28回：篠浦千史講師「障がい者と教会」</p> <p>第29回：朴米雄講師「在日コリアン問題」</p> <p>第30回：朴米雄講師「在日コリアン問題」</p> <p>第31回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」</p> <p>第32回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」</p> <p>第33回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」</p> <p>第34回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」</p> <p>第35回：棚村重行教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」</p> <p>第36回：棚村重行教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」</p> <p>第37回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」</p> <p>第38回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」</p> <p>第39回：野村忠規講師「牧会者の挫折とその克服」</p> <p>第40回：野村忠規講師「牧会者の挫折とその克服」</p> <p>第41回：芳賀力教授「教会と神学校」</p> <p>第42回：芳賀力教授「教会と神学校」</p> <p>※講師は予定。当該年度に決定する。</p>	
<準備学習等の指示>日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」に目を通しておくこと。	
<テキスト>「日本基督教団史」「教務関係書式集」「日本基督教団教憲教規および諸規則」	
<参考書>担当教授、講師が講義の中で紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>レポートによって評価する。	